

リハビリで変わる未来～私自身も体験して

医療福祉ジャーナリズム分野 修士課程 1年 河野礼子

リハビリ型デイサービス リハサロン祖師谷

敏ちゃんさま

ご講義をありがとうございました。

西武線までの道中をご一緒させて頂き、ありがとうございました。ホームと電車の間隙や段差を軽々と乗り越える力強い腕力を拝見し、車椅子バスケのリアルを見るということは、このような感動が続くのかとドキメキました。

正直に申し上げますと、24時間テレビで車椅子バスケのドラマを見た時には、危険さが印象に残っていました。主人公が車椅子で転倒して起き上がる大変さや、激しいぶつかり合いを見て、車椅子バスケでの新たな転倒により、身体を失うのではないかと心配しました。しかし、私自身も交通事故で車椅子経験があり、走ることが好きであったのに走ることを楽しめない身体になっていることから、元のような疾走感や躍動感を再獲得できる喜びは大きいのだろうと考え直しました。

家族の立場では、大切に思うからこそ、これ以上危険なことはしないで欲しいと思い、一方で、リスクがあっても生き生きと楽しむ生活を応援したいという思いも生じます。

人生の選択をどう生きるか、リスクを避け家族の制止に従い、安全な生活を選択される方も多いように思います。支援を受ける立場であるために、介護者への思いやりや気遣いから遠慮が生じるようにも感じています。

事故後しばらくは、排泄介助を受けたくないため食事を拒否し、理学療法士から歩けなくなるからとリハビリを勧められ、歩けないことを否定されたように感じリハビリも拒否しました。身体を奪われ、未来への希望を失った23歳の自分にとって、最初の希望がパラアスリートの存在でした。一つでも希望があれば、前向きになることができ、結果としてリハビリにも繋がったため、リハビリの大切さと心理的な支援の重要性を感じ、認知症改善をあきらめない本人に伴走するためのリハビリデイサービスを開業しました。

主婦としては無責任と言われながらも、何かを手放さずに、同時並行で継続し続けたことで、誰かの助けを借りて生きる大切さを学びました。看護学生として必死で生活した過去四年の中で、複数の看取りや不登校児の子育てを継続できたのは、デイサービスに通われる利用者様からの励ましの声のお陰でもありました。極限状態の苦しい時に、相談し話を聞いてもらえることで前進ができました。一番弱っている自分を見守ってくれ、支えてくれた誰かがいるお陰で今があることを、敏ちゃん様のリハビリのお話で鮮明に思い出しました。支えられ励ましてもらった分、遅れて取った看護師として恩送りをしたいと思います。

リアルな試合を観戦させて頂き、車椅子バスケの臨場感を体験させて頂くことが楽しみです。ご近所と思いますので、偶然バッタリお目にかかる日も楽しみにしております。

今後ご指導の程、よろしくお願い致します。